

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 3月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
( )1.研究職 ( )2.専門職(医師・法曹・会計士等) ( )3.公務員 ( )4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:戦略コンサルティング) ( )6.起業 ( )7.その他( )			

派遣先大学の概要

メルボルン大学はオーストラリアにおいてナンバーワンの総合大学であり(世界大学学術ランキング2014より)、学術的に世界で非常に高い評価を受けております。メルボルン大学は近年目覚ましい成長を見せており、世界大学学術ランキングでは最近10年間で50位、5年間で30位と大きく上昇しています。特に経済学部や医学部が有名です。

留学した動機

最大の動機は英語圏で生活をしたいという気持ち。元々英語が得意であると自負していたのですが、大学2年生の春に初めて英語圏を訪れた際に自分の英語力に限界を感じ、また日本で英語力を向上することにはどうしても限りがあると思ったため、海外で生活してグローバルに活躍するために必要な英語力を習得したかった。自分より成績の悪い友達でも留学できていたのを見て、自分にも可能性を感じたから応募した。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年		7月~	2016年	7月
	学部4		年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の		7月頃に 行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		75単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		0単位		
	留学後の取得(予定)単位		21単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年		4月入学	2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			6年	0ヶ月間	

⑨留学時期を決めた理由:

特に意識していなかった。留学しようと思ったのが大学三年の秋前だったため、そのタイミングで応募すると必然的に4年の夏学期終了以降に留学開始となる。当初は院に行こうと思っていたため就活等の時期は全く考慮していなかった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

やるべきことは東大のホームページから入手できる書類に全て記載してあるので、特段難しいことはなかった。学内選考が終わった後向こうの大学に申請する際にも指示された手順に従えばよいので全く問題はない。ただ、申請時点で履修を組む必要があったため、少し苦労した。当然ではあるが向こうのホームページは全て英語であるので、向こうの履修システムや科目の説明等の理解には想像以上に時間がかかると思った方がよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

僕自身国籍が中国であるため大半の学生の参考にはならないと思うが、中国人であると日本人の何倍も苦労する。例えば日本人であれば申請全てがオンラインで進むようで非常に楽だが、中国人の場合は書類を手書きで入力したのち国際郵便で韓国にある大使館に送付する必要があった。また、完全に自分が悪いが申請をギリギリでした結果留学出発前日までビザがおりずバタバタしまくったので、必ず余裕を持って申請するように。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

予防接種等はしなかった。ビザの要件に指定医療機関での健康診断があったため、ビザ申請後に行った。2万円程度かかったので要注意。常備薬等は親に持たされたが、間違いなく日本から持って行った方が質も高いし安心。医療用語を現地で伝えるのは非常に難易度が高いので、現地で病気等はなるべくしたくない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は東大に支持されるとおりに行った。またオーストラリア政府が全留学ビザに課す現地の保険があり、これが650ドル程度とびっくりするほど高かった。東大のと合わせて保険だけで15万もかかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

基本的に必要単位がほぼ取り終えていて単位交換等は元々するつもりがなかったため、特に相談等はしなかった。工学部の単位交換はルールがかなり厳しいようだったので諦めた面もある。そもそも学科で履修している内容とは違う範囲の学習をしたかったため、交換する理由が特になかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学点数: TOEFL 91。元々継続して英語学習していたが、現地についてやはり苦労した。特にオーストラリアのアクセントに全く耐性のない状況で行ったので、聞き取りが非常に苦労した。自分の留学先に合わせた英語に聞き慣れていた方がよいと思う(綺麗なアメリカアクセントしか聞いていないと間違いなく苦労する)。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

箸や醤油用の小皿や小鉢等、日本にしかない食器や調味料。あと鼻セレブとか。現地に売っていないことが非常に多い。パスタ用のソースやレトルトの食品は持っていけるだけ持っていきべき。間違いなく食のの違いで最も苦しむ。あとはパーティ用のスーツやネクタイは出来れば持っていききたい。クレジットカードを複数枚作っておくこと(ライフカードだと5%キャッシュバックされるのでこれはますと、レート考えるとVISAよりMaster Cardの方が良いらしい)。

**学習・研究について**

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
Foundations of Computing		Business Finance	
Foundations of Algorithms		Foundations of Information Systems	
Principles of Marketing		Business Decision Analysis	
Foundations of Informatics			
Finance 1			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>僕自身は日本で学習していなかった内容を学びたかったので、金融系やマーケティング等経済学部の授業を重点的に履修していた。講義は全て録画・録音されておりLMS上でダウンロードできる。授業に出ても英語等でわからないことが多かったので、家で録画を見て復習していた。ちなみに試験会場が世界遺産で感動した。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p> <p>一学期あたり4科目まで履修でき、基本的には一科目につき1週間で講義が1～2コマで2～3時間、チュートリアルやワークショップが1～2時間ある。1科目の単位数は12.50 pointsである。ワークショップが毎週課題が課され、アサインメントもセメスターに2、3回あるので学習量は非常に多い。これと別に英語の勉強もしなければいけないのでかなりストレスフルだった。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p> <p>オーストラリアの学生は他の英語圏と同じように、高校まではそれほど勉強せず大学に入ってから真面目に勉強するため大変勤勉である。実際図書館はいつ行っても混んでいる。英語等で引け目を感じてしまうかもしれないが、やはり地頭は東大生のが遥かに良いので積極的に授業に参加して発言するといい。自信を持つこと。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p> <p>現地の発音になれることが一番のキーポイント。また留学生が大変多いので、様々なアクセントになれるよう沢山のひとと積極的に交流すると良い。ただし、自分が知らなかった単語や表現をしっかりと書き留めないと次聞いた時に忘れてしまうため英語に敏感でいるべき。絶えず英語学習をしていないと一向に英語力は向上しない。僕個人がやっていた英語学習は英語のコメディを英語字幕で見ることや、交流イベントに毎週参加してたくさん話すこと。</p>
<p><b>生活について</b></p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p> <p>学生用のアパートに住んでいた。寮は異常に高かったため断念したが、他の学生はシェアハウスに住む等していた。CBDの中心にあったため月のレントはAUD950だが、これでもかなり安い方。家賃が異常に高い街だった。大学のHousingの掲示板に載っていたところを自分で見つけた。ただ家探しは本当にストレスフルな作業なので事前に決めてから渡航するといいい(僕は最初は家を決めずホステルに泊まりながら家を探した)。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p> <p>メルボルンは雑エコノミストが選ぶ「世界で最も住みやすい街ランキング」で6年連続で一位の街で、実際生活はしやすかった。沢山のひと種がいるしアジアンレストランも多いので、日本人は住みやすいだろう。交通機関は「トラム」と呼ばれる路面電車が市中を走っており、郊外に行く際にバスや電車を用いる。治安も良く、非常にのんびりした雰囲気。お金は基本的にライフカードというクレジットで支払い、家賃は振り込みだったので親に送金してもらった。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> <p>治安が良かったため特に何も気にしていなかった。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p> <p>約14万(家賃8万、食費5万、その他交際費1万)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p> <p>約200万(航空券15万、保険15万、健康診断2万、その他雑貨3万、旅行15万)</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

東大の留学生用奨学金
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学のフットサルリーグに友達と参加していた。Pick upでフットサルした時に出来た友達に誘われたもの。週二回。日本人コミュニティでたまに集まりがあった。あとはワインソサエティに所属していた(ワインの飲むサークルの様なもの)。学期中の休みはオーストラリア旅行をしたり、家でまったりしていた。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
留学生用のイベントがあったりクラブがあったりしたが、交換留学生は英語圏からが多いため非英語圏の学生のための語学サポート等は特にはない。生活・精神面については新入生向けにメンタリングシステムがあり充実している。学習サポートもチューターが親身になって教えてくれるので問題はない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
学校の設備はUnion Houseという建物があり、クラブの部室やフードコートが入っている。建物前の広場では毎週フリーBBQが行われていたり、どこかしのクラブがイベントをやっていて非常に賑やか。グラウンドもあり、ジムもあるが利用費用は一学期で230ドル程度。図書館はこれでもかというくらい沢山あり、深夜1時まで開いている。試験期間中は24時間開放も行われる。
<b>留学と就職活動について</b>
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
留学自体が話の種になるし、身についた英語力(TOEFL 102, TOEIC 985)は採用する側にとっては大変魅力的な要素であると感じる。海外にいると自然と振る舞い方が海外スタイルになるが、就職活動においては上手いこと他の学生との差別化につながったと感じる。ただ海外にいるときに選考があると参加できなかったりするので、タイミングの面でデメリットを受ける可能性は非常に高いので要注意。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
留学そのものが大きな影響を与えたということはないが、日本にいるときより圧倒的に時間ができるため自分について考える時間ができる。この時間に自分の価値観が形成されていくのを感じたし、非常に有意義な機会だった。元々海外で働こうかと思っていたが、いかに日本が好きか改めて実感したため日本で働こうと(というか日本以外ではもう住めないだろう)思った。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
特にしていなかった。情報が少なすぎたので、友達に個別で聞いたり就活サイトをチェックするなど他の学生と特に変わらない。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
( )1.研究職 ( )2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) ( )3.公的機関(機関名: ) ( )4.非営利団体(団体名又は分野: ) (○)5.民間企業(企業名又は業界: 戦略コンサルティング) ( )6.起業(分野: ) ( )7.その他( )
<b>留学を振り返って</b>
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
留学の最大の意義は日本以外の世界を知ることにあると思う。日本はあまりに自己で完結できてきたため文化も画一的だったが、もうそんな時代はとうに終わっている今できるだけ早く世界を知ることが大事である。世界というのは欧米諸国に限らない。沢山の人や文化と交流する中で自分や世界を見つめ直すの良い。英語力等が身についたこと以上に、自分という人間が形付いたことに最大の価値がある。
②留学後の予定

留学中に院進をやめて就職することを決意したので、もう一年学部で勉強して就職する。留学したおかげで外資系の企業に内定し就活が一瞬で終わったので、真面目に勉強及び研究する所存。1、2ヶ月程度の留学も出来たらしたい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

絶対にすべきです。世界での日本人のプレゼンスは非常に限定的ですし、英語を喋れる日本人も少なすぎます。東大も徐々に留学しやすくなっている所以積極的に機会を活かして欲しいです。自分の可能性や取れる選択肢を増やしてくれますし、人生を変えるきっかけになると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

バイリンガルニュース、バイリンガール、Hapa英会話、ListnMe

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。